

## 平成29年度 苫小牧におけるCCS※1 大規模実証試験事業

## CCSシンポジウム

## 「CCSの今後を考える」

10月2日(月)から参加申込受付を開始！

日本CCS調査株式会社(本社:東京都千代田区、社長:石井 正一)は、平成29年12月13日(水)に開催されるCCSシンポジウム「CCSの今後を考える」(主催:経済産業省)におきまして、一般の方からの参加申し込みを、平成29年10月2日(月)から受け付けます。

北海道苫小牧市にて行われているCCS大規模実証試験事業では、平成28年度から二酸化炭素の海底下の地層への圧入が開始され、平成29年12月には、二酸化炭素の貯留量が10万トンに達する見込みとなりました。我が国では過去に1万トンの二酸化炭素の貯留実績があるのみで、この度の10万トンは、CCSにおける実用化水準と言われる年間100万トンに至るマイルストーンとなります。ついては、貯留量が10万トンに達するまでの経過と今後の課題などを検討の上、今後のわが国の発展に活かすためのシンポジウムを開催致します。

シンポジウムでは、地球温暖化とパリ協定後の世界の動向として、国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム研究センター副センター長の亀山康子氏、苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業におけるPA※2について、英国ロバート・ゴードン大学環境社会学博士のレズリー・メイボン氏よりご講演頂きます。また、公益財団法人深田地質研究所理事長の松岡俊文氏より、苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業の今後への期待として、課題提起及び総括を頂きます。

主催の経済産業省からは日本の温暖化対策政策について、また、経済産業省から苫小牧での実証事業を受託した日本CCS調査(株)からは、苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業のこれまでの成果と実績や世界の中での位置づけを報告致します。

なお当社は、経済産業省の「平成29年度苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業」を受託し、その事業の一環として本シンポジウムの企画・運営を行うものです。

※1 CCS:Carbon dioxide Capture and storage(二酸化炭素の分離・回収、貯留)

※2 PA:Public Acceptance(社会的受容性)

## ■ CCSシンポジウム 開催概要

1. 日 時 : 平成29年12月13日(水) 14:00~17:55 (受付開始 13:30)
2. 会 場 : ステーションコンファレンス東京 5F 503ABCD (JR東京駅日本橋口)  
東京都千代田区丸の内一丁目7番12号サピアタワー5階
3. 主 催 : 経済産業省

## 4. プログラム

- |             |   |
|-------------|---|
| 14:00-14:05 | 【開会挨拶】 経済産業省 (調整中)  |
| 14:05-14:15 | 【課題提起】 苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業の今後への期待<br>公益財団法人 深田地質研究所 理事長 松岡 俊文       |
| 14:15-15:00 | 【講演】 地球温暖化とパリ協定後の世界の動向<br>国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム研究センター副センター長 亀山 康子 |
| 15:00-15:45 | 【講演】 日本の温暖化対策政策について<br>経済産業省 (調整中)                                  |
| 15:45-16:30 | 【報告】 世界のCCSにおける苫小牧CCS大規模実証試験事業の位置づけ<br>日本CCS調査(株) 顧問 国際部長 澤田 嘉弘     |
|             | 【報告】 苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業のこれまでの成果と実績<br>日本CCS調査(株) 技術企画部長 田中 豊       |

- 16:30-16:45 休憩  
16:45-17:30 【講演】 苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業のPAについて  
ロバート・ゴードン大学（英国）環境社会学博士 レズリー・メイボン  
17:30-17:50 【総括】 苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業の今後への期待  
公益財団法人 深田地質研究所 理事長 松岡 俊文  
17:50-17:55 閉会

5. 定員 200名 ※先着順  
6. 参加費 無料

## ■参加申し込み要領

### 1. 応募方法

「CCSシンポジウム」と明記の上、参加者の①氏名（可能であれば会社・所属・役職も） ②郵便番号 ③住所 ④電話番号を書いて、FAX、E-mailのいずれかでお申し込み下さい。折り返し参加票をお送りいたします。

\*当日は参加票を5F会場前の受付にご提示ください。

### 2. 申込先

【FAX】03-6268-7385

【E-mail】symposium@japanccs.com

### 3. 応募締切

定員に達し次第、締め切らせていただきます。

### 4. 当選通知

当選された方にのみ、参加票を発送いたします。参加票は、11月以降の発送予定です。

### 5. ウェブサイトURL <http://www.japanccs.com/>

（9/28より日本CCS調査（株）HP「お知らせ」にて情報掲載予定）

## ■お問い合わせ先

CCSシンポジウム事務局（日本CCS調査（株）内）

●担当：総務部 吉田 電話03-6268-7610

●E-mail symposium@japanccs.com

## ■開催当日の取材について

当日の取材をご希望される方は、下記広報担当までお問合せ下さい。

### <会社概要>

名 称	日本CCS調査株式会社
事業内容	CCS技術の事業化調査および研究開発諸業務、実証試験
代表取締役社長	石井 正一
所在地	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号
URL	<a href="http://www.japanccs.com/">http://www.japanccs.com/</a>
資本金	2億4,250万円
設立日	平成20年5月26日
株 主	電力、石油元売り、エンジニアリング、総合商社、石油開発、鉄鋼、ガス、化学など35社

以上

配信先：エネルギー記者会

【報道関係者からのお問い合わせ】

日本CCS調査株式会社

広報渉外部 広報渉外グループ

担当：金森、辻岡

TEL：03(6268)7610 FAX:03(6268)7385

参加費  
無料  
(事前申込制)

主 催：経済産業省

平成29年度 苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業

● CCSシンポジウム

# 「CCSの今後を考える」

平成29年  
**12月13日(水)** 14:00~17:55 (受付開始 13:30)

STATION  
CONFERENCE  
ステーションコンファレンス東京

会場：ステーションコンファレンス東京 5F 503 ABCD (JR東京駅日本橋口)  
東京都千代田区丸の内一丁目7番12号 サピアタワー5階

## 参加申し込み要項

- 【定 員】 200名 ※先着順
- 【応募方法】 「CCSシンポジウム」と明記の上、参加者の、①氏名(会社・所属・役職も) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 を書いて、FAX、E-mail のいずれかで、お申し込みください。折り返し参加票をお送りいたします。  
※当日は参加票を5F会場前の受付にご提示ください。
- 【申込先】 FAX：03-6268-7385 または、E-mail：symposium@japanccs.com
- 【応募締切】 定員に達し次第、締め切らせていただきます。
- 【当選通知】 当選された方にのみ、参加票を発送いたします。参加票は、11月以降の発送予定です。

※お預かりした個人情報は、本件以外の目的では使用いたしません。  
※応募結果、発送状況等についての個別のお問い合わせはお受けできません。

お問合せ先

CCSシンポジウム事務局：日本CCS調査株式会社

☎ 03-6268-7610 (担当：総務部 吉田) または symposium@japanccs.com

「CCSの  
今後を考える」

## 開催趣旨

平成29年12月には、苫小牧でのCCS大規模実証試験事業におけるCO2貯留量が10万トンに達する見込となりました。わが国では過去に1万トンのCO2貯留実績しかありませんので、この度の10万トンは、CCSにおける実用化水準と言われる年間100万トンに至るマイルストーンとなります。については貯留量が10万トンに達するまでの成果と今後の課題などを検討のうえ、今後のわが国のCCSの発展に活かせるためのシンポジウムを開催したいと考えます。

## PROGRAM

14:00～14:05 開会挨拶

(調整中) 経済産業省

14:05～14:15 【課題提起】苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業の今後への期待

北海道苫小牧沖で、2016年4月より開始されたCCSの大規模実証試験は、その後順調に圧入が続けられています。この成功をもとに、温暖化対策において欠くことができないCCS技術を、わが国においてこれからどのように発展させていくか、衆知を集め広く議論を進めるための課題提起を行います。

公益財団法人 深田地質研究所

理事長

松岡 俊文

14:15～15:00 【講演】地球温暖化とパリ協定後の世界の動向

2015年末に採択され翌年発効したパリ協定は、今後の各国の温暖化対策が目指すべき究極的な目標を提示しました。即ち、平均気温上昇幅2℃目標と、それに到達するために今世紀末までの実質排出量ゼロ目標です。すでに世界はその目標に向けて大きく舵を切っており、ここではその動向の一部を紹介します。

国立研究開発法人 国立環境研究所  
社会環境システム研究センター

副センター長

亀山 康子

15:00～15:45 【講演】日本の温暖化対策政策について

(調整中) 経済産業省

15:45～16:30 【講演】世界のCCSIにおける苫小牧CCS大規模実証試験事業の位置づけ

日本CCS調査株式会社

顧問 国際部長

澤田 嘉弘

【講演】苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業のこれまでの成果と実績

日本CCS調査株式会社

技術企画部長

田中 豊

16:30～16:45 休 憩

16:45～17:30 【講演】苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業のPAIについて

北海道苫小牧市のCCS大規模実証試験事業に対し、地域ではどのような社会的受容がなされているか、現時点における状況を紹介します。2014年から2017年にかけて苫小牧市において行った社会学的な調査と、その結果を踏まえて報告します。

ロバート・ゴードン大学(英国)

環境社会学博士

レズリー・メイボン

17:30～17:50 【総括】苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業の今後への期待

公益財団法人 深田地質研究所

理事長

松岡 俊文

17:50～17:55 閉 会

## 12/13 CCSシンポジウム・参加申し込み

氏 名	様	住 所	〒
会社・所属・役職		電 話 番 号	TEL

FAX : 03-6268-7385

CCSシンポジウム事務局 行

